

4 中・高	福祉
----------	----

解答時間 60分

受験番号	
------	--

氏名	
----	--

全てマーク式解答用紙に答えなさい。

(8枚のうち No. 1)

① 生活支援について、次の問いに答えなさい。

問1 清潔保持の支援を行う時に、皮膚疾患がある場合の注意事項を述べた文のうち、疥癬がある場合の留意点として最も適切なものを、次の①～③から一つ選びなさい。 ア

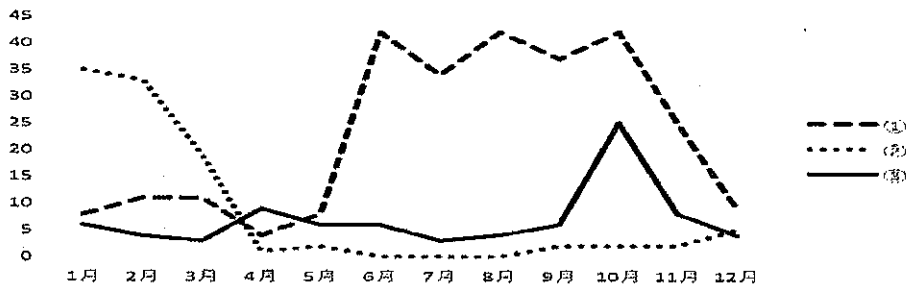
- ① 乾燥する冬に症状が出やすく、夜間にかゆみが強くなることが多い。体温が上昇すると掻痒感が増強する。入浴時は熱いお湯と長湯を避ける。
- ② 入浴は、順序を最後にして全身を丁寧に洗う。使用した衣類や寝具には直接触れず、他のものと別にして50℃の湯に10分程度つけた後、洗濯する。
- ③ 皮膚の清潔と乾燥を保つ。特に手足の指間部や陰部は発症しやすい。靴下を時々脱いで過ごすようにすると良い。

問2 調理の支援において注意すべき食中毒について、細菌性食中毒の病因に該当するものを、次の①～⑧から全て選びなさい。 イ ※ イ の欄に全てマークすること。

- ① O157 ② アニサキス ③ カドミウム ④ サルモネラ
- ⑤ ソラニン ⑥ テトロドトキシン ⑦ ノロウイルス ⑧ 黄色ブドウ球菌

問3 下のグラフは令和2年病因物質別月別食中毒発生件数であり、 ウ は細菌性食中毒、 エ は自然毒である。空欄 ウ、 エ に該当するものを、①～③からそれぞれ一つずつ選びなさい。

令和2年病因物質別月別食中毒発生件数



(厚生労働省 食中毒統計資料より作成)

問4 厚生労働省と経済産業省が策定している「ロボット技術の介護利用における重点分野」において、平成29年の改訂で追加になった項目を、次の①～⑤から全て選びなさい。

- オ ※ オ の欄に全てマークすること。
- ① トイレ内での下衣の着脱等の排泄の一連の動作を支援する機器
 - ② 介助者のパワーアシストを行う装着型の移乗支援機器
 - ③ 高齢者等の外出等をサポートし、転倒予防や歩行等を補助する装着型の移動支援機器
 - ④ 見守り、移動支援、排泄支援をはじめとする介護業務に伴う情報を収集・蓄積し、それを基に、高齢者等の必要な支援に活用することを可能とする機器
 - ⑤ 浴槽に出入りする際の一連の動作を支援する機器

② 福祉における情報活用について、次の問いに答えなさい。

問1 介護保険制度については、ICT化を念頭において制度化された。国民健康保険団体連合会がオンラインを活用して行っている業務を、次の①～③から一つ選びなさい。 ア

- ① 介護サービス計画の作成 ② 介護報酬請求 ③ 要介護認定等基準時間の算出

問2 コンピュータには、次の①～⑤の5つの機能がある。介護保険施設等においても、コンピュータが活用されており、過去の尿の溜まり具合に基づき、排尿前にトイレ誘導の目安となるメッセージをタブレット端末に通知する活用例がある。この過程の中で、データの処理結果をディスプレイなどに表示することは、どの機能によるものか、最も適切なものを一つ選びなさい。 イ

- ① 演算機能 ② 記憶機能 ③ 出力機能 ④ 制御機能 ⑤ 入力機能

4	福祉
中・高	

全てマーク式解答用紙に答えなさい。

(8枚のうち No. 6)

問6 社会保険制度について、次の問いに答えなさい。

(1) 医療保険制度は被用者保険と地域保険とに分けられる。被用者保険に当たるものを、次の①～⑤から全て選びなさい。 サ ※ サ の欄に全てマークすること。

- ① 共済組合 ② 健康保険 ③ 後期高齢者医療制度 ④ 国民健康保険 ⑤ 船員保険

(2) 公的年金について述べた文として誤っているものを、次の①～⑤から一つ選びなさい。 シ

- ① 障害年金には障害基礎年金と障害厚生年金とがある。それぞれ障害等級1級から3級まであり、障害等級に応じた年金額が支給される。
 ② 複数の公的年金の受給権が生じた場合、基礎年金、厚生年金からそれぞれ1種類を選択する。
 ③ 老齢年金では、60歳から受給する繰り上げ支給や、65歳以降70歳未満の間に受給する繰り下げ支給もある。
 ④ 年金額は、賃金スライドや物価スライドに加え、マクロ経済スライドによる調整により、毎年度決定される。
 ⑤ 公的年金制度は、世代間扶養の考え方に立って、現役世代の保険料を高齢者世代の年金給付に当てる賦課方式を基本としたしくみになっている。

7 コミュニケーション技術について、あとの問いに答えなさい。

問1 次の個別援助の事例を読み、相談員の言動が「バイステックの7原則」に当てはまらないものを、下線①～⑤から一つ選びなさい。 ア

Aさん(78歳、女性、一人暮らし)が自宅で閉じこもりがちになったため、近所に住む長男Bさんが心配して地域包括支援センターに相談に行きました。Bさんは、Aさんの施設入所について相談しましたが、本人が見捨てられたと悲しまないように、施設への相談のことは内緒にしてほしいと頼みました。

相談員Cは、Aさんの自宅を訪問し、Aさんから直接話を聞きました。①Bさんから施設入所の相談があったことは、Aさんには言わず、「息子さんが心配していますよ」と話を切り出しました。Aさんは、ホームヘルパーの介護が下手だと次々と不満を言います。②Cは、不満をぶつけられてうんざりした気持ちになっていることに気づき、表情に表れないように気をつけ、しっかりとAさんの話に耳を傾けました。

ひととおり話し終わると、Aさんは急にうなだれてむせび泣き始めました。③Cは「悲しいことがあるのですね…何でも話して下さっていいですよ」と言い、Aさんが感じるままを自由に表現できるよう促しました。するとAさんは泣きながら大声で「動きたくても動けないのがつらくて死んでしまいたい」と訴えます。

④Cは「死ぬなんていってはいけません」と、何度も繰り返しAさんを励ましました。

しばらくするとAさんは落ち着きを取り戻し、「話を聞いてくれて楽になった」と言いました。⑤Cが多様なサービスの情報を提供し、考えを聞くと、Aさんは「いくつか試してみたい」という意向を表明しました。

問2 認知症の療法として活用されるバリデーションの説明として最も適切なものを、次の①～⑥から一つ選びなさい。 イ

- ① 感情レベルに焦点を当てたコミュニケーション法。尊敬と共感を持って関わることを基本とする。
 ② 音楽を通して、心とからだに働きかける。不安やストレスを軽減し、生きる喜びを感じ、生活が豊かになることを目的として行う。
 ③ 見当識障害に働きかける訓練である。現実認識を深めることを目的として行う。
 ④ 意図的に刺激を与えて行動に変化をもたらし、適応的な行動へ変容させる。
 ⑤ 場面文脈を設定してコミュニケーションを指導していくアプローチ方法。
 ⑥ 思い出の写真や音楽などを通して、過去の記憶を引き出し、昔の思い出を語ってもらう。自分の存在価値を認知し、自尊心を高めることを目的として行う。